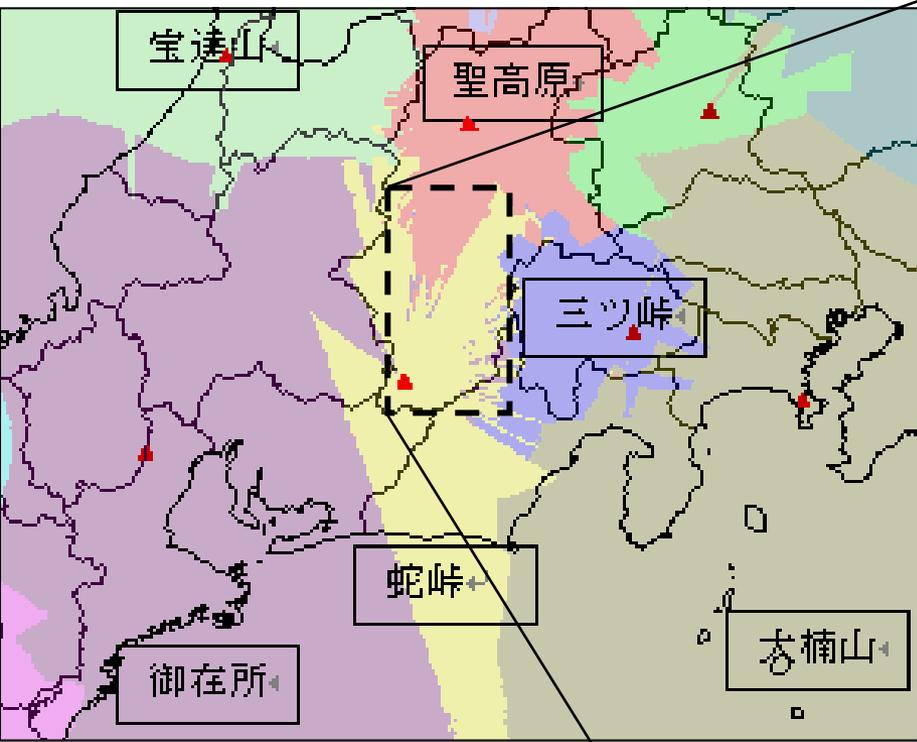


● CバンドレーダとXバンドレーダの仕様比較

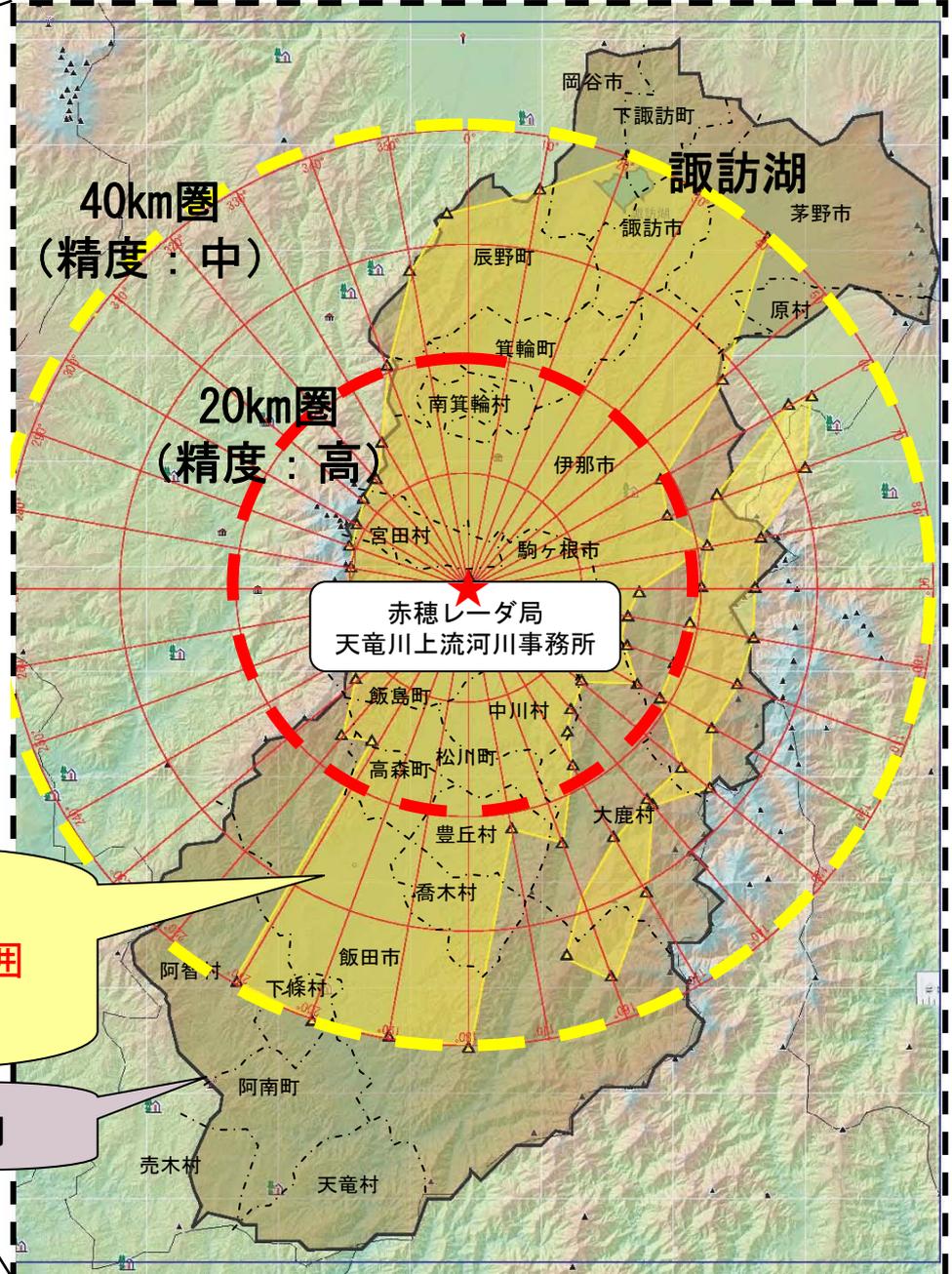
レーダ種類	Cバンドレーダ (従 来)	Xバンドレーダ (今 回)
観測目的	降雨の実況監視 (広 域)	降雨の実況監視強化 (狭域・詳細)
データの分解能 (データ取得メッシュ)	1 k m	2 5 0 ~ 5 0 0 m

【Xバンドレーダの特徴】

- ・ データ取得範囲が次ページのとおり、従来の高高度観測に対して、低高度での観測が可能となります。
- ・ また、データ取得メッシュが「1 k m」から「2 5 0 ~ 5 0 0 m」となり、より詳細な観測が可能となります。
- ・ 以上のことから、より精度の高い雨量観測が可能となります。



Cバンドレーダ観測合成エリア図
(急峻な山々に囲まれており、高高度の観測となる)



今回の気象レーダ設備（赤穂局）により、
従来より低高度の雨量観測が可能となる範囲
(=精度が高い雨量観測が可能)

天竜川上流河川事務所管内

※ただし、今後の検証等により、データ取得範囲が変更となる可能性があります。